

環境戦略(自然資本)

地球は、地球を構成する大気、水、土壌などが相互に作用しながら健全な生存基盤をなし、豊かな生物多様性を形成しています。暮らしや経済活動は、自然資本*である地球からの恵みを受け、持続可能に発展しています。積水化学グループの企業活動も、土地の上に工場や事務所を建てたり、石油や木材を消費したりするなど、地球の財産(自然資本)を利用しています。このことを認識し、利用した自然資本を還していく取り組みを進めています。

*自然資本: 土地、大気、水、鉱物、動物、植物などの地球上のあらゆる資源であり、自らの手でつくり出せないもの。

環境長期ビジョン SEKISUI環境サステナブルビジョン2030

当社グループは、事業活動が自然資本に依存していることを認識しています。経営層および社員一人ひとりが“環境活動推進力の高い人材”へと進化を図るとともに、2030年には“地球から授かったもの以上に地球に返していく”ために、「環境貢献製品の市場拡大と創出」「環境負荷の低減」「自然環境の保全」の3つの活動による貢献を軸に環境経営を推進していきます。

そして、「自然資本へのリターンに貢献」していくことで、“生物多様性が保全された地球”の実現に向けて際立つ価値を創造し続けます。

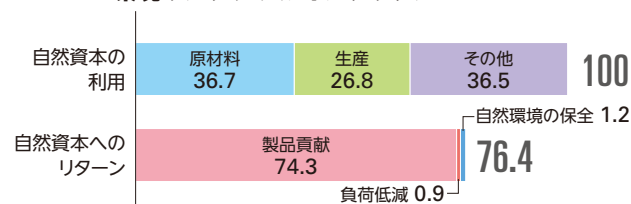
さらに国連による「持続可能な開発目標(SDGs)」で挙げられた気候変動やエネルギーなどの課題に対し、強靱(レジリエント)かつ持続可能な解決に向けて取り組んでいきます。

統合指標の試算 「SEKISUI環境サステナブルインデックス」

当社グループは2014年度より、企業活動が環境に与える負荷(自然資本の利用)と環境への貢献(自然資本へのリターン)の度合いを1つの指標“SEKISUI環境サステナブルインデックス”として算出しています。

2015年度の実績を用いたSEKISUI環境サステナブルインデックスの計算結果を以下に示します。環境への負荷を自然資本の利用として100とすると、環境への貢献である自然資本のリターンは76.4となりました。(2014年度と比較すると11.9%リターンが増加)

SEKISUI環境サステナブルインデックス



環境中期計画

「SEKISUI環境サステナブルプランTake-Off」 (2014～2016年度)

長期ビジョン「SEKISUI環境サステナブルビジョン2030」からバックキャストし、2014～2016年度の環境中期計画「SEKISUI環境サステナブルプランTake-Off」を策定し、具体的な目標を掲げて取り組みを行っています。

環境マネジメントシステム

当社グループは、社長を委員長とするCSR委員会およびその下部委員会の環境分科会を、それぞれ2回ずつ開催し、グループ全体の環境の方針および主要な取り組みを決めています。これらの委員会の決定事項を受け、カンパニー・コーポレート間の環境責任者会議にて具体的な活動計画を策定しています。事業所ではISO14001にのっとった環境マネジメントシステムを構築し、環境活動を運用しています。

2016年3月末時点で、国内54事業所、海外32事業所がISO14001等の認証を取得。これらの事業所の従業員数が当社グループ全体に占める割合は50%になっています。

温室効果ガスの排出削減

当社グループは、原材料の調達から開発・生産・輸送・使用の各段階にわたって温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。自事業所だけでなく、原材料調達先や販売した製品の使用を含めたサプライチェーン全体での排出量の把握を行っています。

環境戦略

中でも、生産時に発生する温室効果ガスの総量について2013年度比で総排出量を維持しつつ、エネルギーの生産量原単位を毎年1%ずつ削減することを目標とし、特に近年増加傾向であった海外事業所の省エネルギー活動に注力しています。

その結果、2015年度の総排出量は4.5%削減となりました。今後もCOP21で示された目標値を念頭に事業活動のすべての段階での継続的な温室効果ガス削減に取り組んでいきます。

廃棄物の削減

廃棄物については、廃棄物発生量の生産量原単位を2013年度比で毎年4%削減するという挑戦的な目標を立てています。生産効率改善による削減から視点を変えて、これまで培ってきた樹脂加工技術を駆使することで、廃棄物を単なる有価物として売却するよりもさらに価値あるものに生まれ変わらせることに挑戦しています。

海外の生産事業所ではゼロエミッションを推進しています。当社では直接埋め立てゼロと熱回収をしない単純焼却ゼロを認定の基準としていますが、海外では依然埋め立てや単純焼却が多いのが現状です。そのような状況でも、2015年度は北米のSPI社Bloomsburg工場をはじめ5事業所を認定できました。

水資源の保全

水資源は持続的な事業活動に欠かせない重要な自然資本であるため、取水量の削減はもちろん排水が生物多様性に与える影響や、事業継続に影響する水リスクの把握にも取り組んでいます。2015年度は生産事業所の水使用量が2013年度比5.8%の削減となり、WETによる排水の評価も新たに4事業所で実施しました。水リスク調査では海外事業所を中心に再調査を行い、緊急の対策が必要な事業所がないことを確認しました。

自然環境の保全

当社グループでは、従業員による自然環境保全のための活動を世界各地の事業所で展開しています。中でも、全従業員による環境貢献活動の機会として、毎年8月1日からの1週間を「SEKISUI 環境ウィーク」と定めています。第3回を迎えた2015年度は、19,677人の従業員が参加。活動内容は地域の清掃活動やオフィスでの省エネ活動、植林、小学校での環境教育など多岐にわたりました。またシンボルイベントとしてドイツで「欧州子どもエコサミット2015」を開催。会長・社長をはじめとする経営幹部のほか、従業員とその家族約80人が参加し、植樹活動や環境学習を行いました。

環境貢献製品

地球上の資源を活用し、製品・事業を生み出すわれわれにとって、環境貢献は大切な使命です。当社グループは「環境貢献製品」の市場拡大と創出を行うことで地球の自然資本へのリターンに貢献していきます。

「環境貢献製品」とは、高いレベルの環境貢献効果を有し、かつお客様の使用段階において、その効果を発揮することを認められた製品であり、社内認定制度により登録を行っています。

当社グループは、連結売上高に占める環境貢献製品の売上高比率および新規登録製品の拡大に取り組んでいます。2015年度は、太陽光発電装置付き住宅の売上減少によって、環境貢献製品売上高4,858億円、売上高比率44.3%と減少しています。一方、特に海外についてエリアごとの事情を考慮したエリア貢献の考え方を明確にし、タイにおける住宅など当社グループがエリアでの普及をリードしている製品の登録などを行った結果、環境貢献製品の新規登録件数は15件となりました。

(注) 環境に関する数値については、データ集(P58-61)をご覧ください。